

精度管理として、特に、精検受診率70%以上は達成すること。全国集計の結果、下位20%の都道府県に対しては改善勧告をするとのことだった。

下田副主幹より、以上のことについては、鳥取県の場合、従来から市町村別、地区別に検診実績を集計しており、健対協のホームページで公開している。また、都道府県、市町村、検診機関別の精度管理チェックリストが示されているが、健対協を中心として既にほとんどが網羅されていると思われるとのことであった。

6. がん検診受診率向上プロジェクトについて：

下田県健康政策課がん・生活習慣病対策室副主幹

鳥取県健康政策課においては、「がん検診受診

率向上プロジェクト2011～新規受診者を掘り起こせ！～」として、検診体制強化としては、大腸がん検診特別推進事業、休日がん検診支援事業については事業を拡大して継続実施。

協議事項

1. 肺がん検診従事者講習会・症例検討会について

今年度は、中部地区で平成24年2月25日（土）に開催予定。

講習会において、特別講演とX線フィルムの撮り方についても研修を行うこととなった。

施設X線検診のスキルアップが必要

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会胃がん部会
鳥取県健康対策協議会胃がん対策専門委員会

■ 日 時 平成23年8月18日（木） 午後1時40分～午後2時40分

■ 場 所 鳥取県健康会館 鳥取市戎町

■ 出席者 29人

岡本健対協会長、池口部会長、吉中委員長

秋藤・伊藤・岡田・尾崎・謝花・長井・西土井・野川・藤井武親・藤井秀樹・三浦・三宅・八島・山口るり子・山口由美各委員

オブザーバー：藤原鳥取市保健師、松本岩美町保健師、藤原智頭町保健師

大羽倉吉市保健師、洞ヶ瀬湯梨浜町保健師、原田北栄町保健師

県健康政策課がん・生活習慣病対策室：下田副主幹、野口主事

健対協事務局：谷口事務局長、岩垣係長、田中主任

【概要】

・X線検査の車検診においては、きれいな写真が撮れるようになり、要精検率6.5%前後で各地区の格差があまりなくなってい

る。医療機関検診においては、各地区医師会を中心に読影の精度管理が行われているが、中部地区の人間ドック検診の要精検率が非常に高い。考えられる原因としては、

放射線技師が撮影を行っていること、新撮影法で撮影されていない、バリウム濃度も適していないことなどが考えられる。今後開催する研修会等に積極的に参加して頂き技師のスキルアップが重要である。

- ・中部地区の胃がん検診受診率が東部、西部地区に比較し低い傾向にあることから、県中部総合事務所福祉保健局が実施主体となって、管内1市4町及び医師会、がん診療連携拠点病院（鳥取県立厚生病院）等と連携し、胃がん受診率向上を目指すため、モデル事業として「胃がん死亡ゼロのまち中部プロジェクト事業」を平成23年度より3年間行う予定。

挨拶（要旨）

〈岡本会長〉

学校（小・中・高等学校）を中心にして家庭、地域住民、医療関係者等が連携を密にして、がん健康教育を進めていくことは重要である。

〈池口部会長〉

鳥取県の胃がん内視鏡検診が全国的に有名となっており、いろんな会議で取り上げられたり、他の所でも普及し始めたという話を聞いている。また、国立がんセンターの濱嶋先生を中心とした内視鏡検診の有効性データも取りまとめられると期待している。

〈吉中委員長〉

厚生労働省は平成22年度国民生活基礎調査にもとづいたがん検診受診率を公表している。

アンケート調査によるが、鳥取県の受診率34.1%に対し、全国平均は30.1%であった。鳥取県の内視鏡検診は先駆的な役割を果たしていると自負しているが、更なる受診率向上を図りたい。また、個別医療機関検診は、地区医師会の先生方におかれては日常の臨床の中で、住民への受診勧奨

に努めて頂きたい。

報告事項

1. 平成22年度各地区胃がん検診読影委員会の実施状況について（車検診分）

東 部：42回読影を行い、鳥取県保健事業団（尾崎委員）分の読影件数は6,186件で、要精検率6.3%、平均読影件数147件。中国労働衛生協会分は、読影件数1,704件で、要精検率11.8%、平均読影件数40件。症例検討会を5回開催。

中 部：27回読影を行い、読影件数4,839件（秋藤委員）で、要精検率が6.6%。症例検討会を5回開催。

西 部：40回読影を行い、読影件数は6,498件。（伊藤委員）平均読影数162件、要精検率は6.7%であった。症例検討会1回開催。

鳥取県の最近の傾向としては、きれいな写真が撮れるようになり、要精検率6.5%前後で各地区の格差があまりなくなっている。

2. 医療機関検診の読影状況について

東 部：平成21年度より、1市4町（鳥取市、（尾崎委員）岩美町、八頭町、若桜町、智頭町）で行われた内視鏡検診については東部胃がん内視鏡検診読影専門委員会の読影委員と撮影した医師の2名でダブルチェックを行っている。また、X線検査は検診機関ごとに指定された読影医師2名のダブルチェックにより読影を行っている。読影会の開催はないが、内視鏡検診実施医療機関については、年2回は「東部胃がん内視鏡検診検討委員会」において内視鏡写真の画像判定が行われており、精度が向上している。

中 部：平成9年度より医療機関検診読影委（秋藤委員）員会を設置し、中部医師会館におい

て読影会を開催している。平成22年度からは、1市4町（倉吉市、湯梨浜町、三朝町、北栄町、琴浦町の間ドック分）で行われた検診の読影を中部医師会館で行うこととなった。

平成22年度実績は以下のとおり

X線検査読影件数：97人 要精検率：28.9%（28人）

内視鏡検査読影件数：2,189人 要精検率：13.1%（287人）

西部：米子市、伯耆町の場合は、健対協胃がん検診読影委員会委員と同じ読影委員がメンバーで医療機関検診読影委員会を設置している。読影委員2名と撮影した医師で読影会を行う。読影件数10,964件、読影回数は103回で、X線検査読影件数1,331件で要精検率9.7%、内視鏡検査読影件数9,653件で要精検率10.8%であった。境港市は健対協胃がん検診読影委員会委員3名と済生会境港総合病院消化器科の医師2名で、境港読影委員会を設置。8月～2月までの間、済生会境港総合病院を会場に月1回の読影会を開催。原則として読影委員2名と検診医の計3名で読影（胃内視鏡検査フィルム・胃X線検査フィルム）を行っている。読影件数2,209件、読影回数は7回で、X線検査読影件数129件、内視鏡検査読影件数2,080件であった。南部町、江府町の検診については、受託した医療機関内の健対協胃がん検診読影委員会委員で読影を行っている。

中部の間ドックでのX線検査の要精検率が非常に高い。原因としては、放射線技師が撮影を行

っていること、新撮影法で撮影されていない、バリウム濃度も適していないことが考えられる。ドック検診での技師のスキルアップが重要である。該当医療機関には中部読影会より研修会等に参加して頂き、改善を図るよう指導を行っている。また、胃内視鏡検診においては不要なバイオプシーが多かった。

3. 胃がん死亡ゼロのまち中部プロジェクト事業について：下田県健康政策課がん・生活習慣病対策室副主幹

中部地区の胃がん検診受診率が東部、西部地区に比較し低い傾向にあることから、県中部総合事務所福祉保健局が実施主体となって、管内1市4町及び医師会、がん診療連携拠点病院（鳥取県立厚生病院）等と連携し、胃がん受診率向上を目指すため、モデル事業として「胃がん死亡ゼロのまち中部プロジェクト事業」を平成23年度より3年間行う。

具体的目標としては、3年間後の平成25年度胃がん検診目標受診率36.8%。毎年受診による早期発見と前年末受診者の受診促進。要精検未受診者の受診勧奨による、精検受診率100%を目指す。

主な事業概要は以下のとおりである。

- (1) 胃がん一次検診への胃内視鏡検診の普及として、医師の技術向上のための研修と精度管理を行う。また、中部医師会等と連携した胃内視鏡検診が身近で受けられる体制づくりとして、受診勧奨のためのチラシ、ポスター配布等の啓発活動や休日検診の推進を行う。
- (2) 住民代表や医療機関、職域及び商工関係機関等による「中部地区胃がん検診推進連絡協議会」を開催し、胃がんゼロを達成するための問題点や課題について意見交換を行う。

4. がん検診受診率向上プロジェクト事業について：下田県健康政策課がん・生活習慣病対策室副主幹

鳥取県健康政策課においては、「がん検診受診

率向上プロジェクト2011～新規受診者を掘り起こせ！～」として、検診体制強化としては、大腸がん検診特別推進事業、休日がん検診支援事業については事業を拡大して継続実施。

啓発活動としては、がんと向き合う県民フォーラム等の開催や、「がん検診受診率向上総合啓発事業」として、テレビCM、ラジオCM、新聞広告、大型ショッピングセンター等での啓発活動、民間企業と連携した鳥取県がん検診推進企業アクション、学校や企業を対象とした出張がん予防教室などを行う予定である。

平成22年度集団検診で行われた休日がん検診実施状況は、17市町村が実施、延べ4,554人の受診者数であった。そのうち、胃がん検診は17市町村

が実施、延べ1,244人の受診者数であった。

報告事項

1. 胃がん検診従事者講習会及び症例研究会について

平成24年3月10日の土曜日に西部地区で開催する。講師、テーマについては、伊藤委員に一任することとなった。

2. 胃がん検診精密検査医療機関登録更新について

現存の実施要綱、届出書にもとづいて、平成23年度中に登録更新の手続きを行う。

無料クーポン券は若年者の初回受診勧奨に一定の効果あり

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会乳がん部会
鳥取県健康対策協議会乳がん対策専門委員会

- 日 時 平成23年8月20日（土） 午後2時30分～午後3時45分
- 場 所 鳥取県中部医師会館 倉吉市旭田町
- 出席者 20人
石黒部会長、工藤委員長
阿部・青木・大久保・岡田・小林・洞ヶ瀬・野川・廣岡・藤井・
前田・山口・吉中・米川各委員
県健康政策課がん・生活習慣病対策室：下田副主幹、横井主事
健対協事務局：谷口事務局長、岩垣係長、田中主任

【概要】

・国庫補助を活用し、平成22年度に市町村が実施した「女性特有のがん検診推進事業」として、40歳以上の5歳刻みの人を対象に検診無料クーポン券が配布された対象者数は20,081人、受診者数は4,814人、無料クーポン券が配布された対象者数に対しての受

診率は24.0%で平成21年度実績とほぼ同じであった。各年齢別の利用率に大きな差はない。

無料クーポン利用者4,814人に対する初回受診者は2,571人で53.4%を占め、また、無料クーポン対象者20,081人に対する初回受診者の割合は12.8%であった。若い年齢